

# ADVOCATE

Japanese Society of Health Promotion : JSHP

ホームページ開設しました！ <http://www.jsHP.net/>

# 2

第2号

日本ヘルスプロモーション学会  
2004年1月1日発行  
発行者 島内憲夫  
編集者 吉岡康

学会事務局  
〒270-1695  
千葉県印旛郡印旛村  
平賀学園台 1-1  
0476-98-1118 (tel/fax)  
norio.shimanouchi@sakura.juntendo.ac.jp

\*advocate「アドボケート」とは、ヘルスプロモーションに関するオタク憲章の中に書かれている3つのプロセスの第一番目「唱道」のことです。

## 巻頭言

### F. ナイチンゲールとヘルスプロモーション

- It is the want of the art of health, then, of the cultivation of health, which has only lately been discovered.



副会長 山本 春江 (青森県立保健大学)

「興味や娯楽を共にするとか、最良の空気、最良の食品、その他人生を有益に健康に幸せにするすべてのものを確保するために協力しようといった共同こそがその解毒剤である。成功というものがあるならば、それは共同のおかげである。」と共同の必要性について強く説いているのは、近代看護学の創立者ナイチンゲールである。

ヘルスプロモーションに最初に触れたとき、私は真っ先にナイチンゲールのこの一文を思い出した。今もナイチンゲールとヘルスプロモーションは行ったり来たりしている。

健康に関しては、特に思い入れをもって(勿論この場合読み手の方に思い入れが深いらしいことをお許し頂きたい)次のように述べている。「新しい芸術であり新しい科学であるものが、創造されてきた。1つは病人を看護する芸術であり、もう1つは健康についての芸術である。」「健康への看護は、健康のための芸術と、さらに健康増進のための芸術を必要とするが、これらはごく最近発見されてきた。」

つまり、看護には病人の看護と健康の看護があると言っている。さらに、それに止まらず健康には健康と健康増進があると言っている。これらは『病人の看護と健康を守る看護(1893)』の一節であり、副題に掲げたのは後半部分の原文である。

「健康増進」と訳されているが、辞書によると「cultivation」は「栽培する」とか「土壌を耕す」という意味である。よって、「作物を栽培するためには土壌を耕すように、健康も手入れしなくてはならない」ということではないだろうか。当時の健康に対する

無関心さについては「草木に対すると同じほどの配慮すら人間の健康には払っていない。」と彼女は嘆いている。

また、ナイチンゲールは徹底した現場主義を貫いた人物であった。「どんな仕事をするにせよ、実際に学ぶことができるのは現場においてのみである。理論も書物から学ぶことも、決して実地修業を不要にすることはできない。またそれらは踏み台としてのほかは何の役にも立たない。書物で学ぶことは、健康を守る現場の実際的な健康を知的に描くためのみ役だつ。」

時代を超えても、どんなに背伸びしてもナイチンゲールになれぬなら、せめて踏み台にだけでもなりたいと思う昨今である。

[引用文献]

薄井担子訳:病人の看護と健康を守る看護[湯植ます監: ナイチンゲール著作集]、現代社、125-155、1893。

日本ヘルスプロモーション学会公式ホームページ  
ができました!

<http://www.jsHP.net/>

大変長らくお待ちいたしました。この度、当学会ホームページがようやく完成いたしました。学会の概要、ヘルスプロモーションについて、主な事業、リンク集、入会案内等が主な内容ですが、できるだけ会員の皆さまのご意見を反映させたページにしたいと考えておりますので、お気づきの点等ございましたら学会事務局までご一報ください。皆さまのアクセスお待ちしております。

# 特集

創刊号では常任理事の皆さんに意気込みを語っていただきましたが、2号から3号に渡っては理事の方々をご紹介させていただきます。

## 理事あいさつ - part -



市村 久美子  
(茨城県立医療大学)  
皆様こんにちは。「ヘルスプロモーション」に出会ったころ幼稚園児だった息子も高校3年生に成長したように、ヘルスプロモーションの認知度も高まり、実践活動も盛んになってきました。現在、私は看護学科で成人領域の教員をしております。昨年度から新カリキュラムの中で「ヘルスプロモーションと看護」の科目を開講しました。この科目の評価は高く、本学会への入会者も出ています。今後は、「看護」領域における「ヘルスプロモーション」の実践活動をより具体化することが課題であると考えています。



蝦名 玲子  
(グローバルヘルスコミュニケーションズ)  
「縦割り社会の日本で自由に横歩きしながら、ヘルスプロモーションに取り組み、効果的に ADVOCATE したい」という願いから、2002年4月に当社を設立しました。現在、日本では近畿・中国地域で、海外ではクローアチアで、活動しています。なぜ WHO がその究極目標を「公正な社会の創造」としているのか、心で理解できるようになりました。健康になるためにプロモーションしなければならない点があれば、どのような角度からでもアプローチし、健康なすばらしい社会をつくりあげてを願っています。



岡田 進一  
(大阪市立大学大学院)  
少子高齢社会に直面している日本において、ヘルスプロモーションは重要な国家の課題であり、多くの賛同者を得て、本学会が発展していくことは喜ばしいことです。ヘルスプロモーションは、地域住民参加型を基本とすることから、医療・保健・福祉・教育の専門職者のみならず、

多くの方々が本学会に参加されることを望んでいます。ヘルスプロモーションの研究・実践を通じて、お互いに多くのことを学び、多くの人々と知り合うことができると考えています。そして、本学会を中心として、ヘルスプロモーションのネットワークが日本国中に広がっていくことを期待します。また、日本からも、ヘルスプロモーションに関する実践活動の内容を世界に発信し、多くの世界の人々とも交流ができると考えています。



加藤 優二  
(優設計)  
健康は私の一生のテーマになっています。家づくりをするにあたっていきなり間取りを作るのではなく、家族の関係がどうあればいいのかが想定しながら形をつくる作業をしていくと、よりいっそう健康に過ごせる家になることに気づきました。また今回このような学会に参加させていただき、健康の考え方の幅が広がることは間違いないし、建築の分野にヘルスプロモーションの考えを普及できるような役が果たせればとも思います。今の私のキーワードは、豊かに生きるためのジェンダーフリーの家です。しっかり学びたいと思います。よろしくお願いいたします。



斉藤 恭平  
(函館短期大学)  
理事という大役をいただき、ヘルスプロモーションの推進に責任を感じております。現在私は函館短期大学に所属しながら、北海道内市町村の健康づくり計画策定支援を通じてヘルスプロモーションの浸透に努めております。オタワ憲章後に島内先生が口にしていた「我々の時代がきっと来る」という言葉を、今ひしひしと感じながら、ひたすら act locally でがんばっております。



宗宮 安宏  
 (陸前高田市役所)  
 日本ヘルスプロモーション学会は研究者だけでなく、学生、市民参加のユニークな学会で、市民感覚を大事にした運営を期待しています。私は、市職員として健康文化のまちづくり事業に携わってきましたが、ここで知り合えた健康文化のまちづくりに関心を持ち積極的な活動をしている人々とサークルを結成し、参加させていただいています。健康づくりに関わる職場からは異動しましたが、まちの健康づくりには行政と市民がお互いに手を携え協同のまちづくりが大切です。これからもサークルの一員として、行政マンとして「まちの健康」について私に何ができるかを考えながらサークルの仲間と一緒に歩いていきたいと思っています。



田山地 麻里  
 (宮崎市役所)  
 ~ヘルスプロモーションとの出会い~  
 ヘルスプロモーションを通じて、多くの素敵な人たちとの出会いのチャンスを得ながら、21世紀にまたがって生きていける大変幸運な時期に恵まれたことに感謝しています。これからの健康なまちづくりに向けて、太古の昔からの伝統に息づいている智慧を大切にしながら、時代や地域に合った新しい方向性を模索していくことができたいと思っています。一人ひとりがゆったりと豊かに過ごせるように、私にも出来ることを1つずつ始めたいと思っています。どうぞこれからもよろしくお願いします。



中村 修一  
 (九州歯科大学)  
 1994年にネパールに歯科保健医療協力の活動拠点を建設し島内憲夫先生に「テチョー村ヘルスプロモーションセンター」と命名して頂きました。そして10年活動内容はメディカルケアに加えヘルスケアが充実、

活動の主体は依存型から現地住民が参加する自立型に移行しました。さらに活動の対象が個人から集団を経て地域に広がりつつあります。自立型保健が進むと既成の組織が抵抗します。役人の体質は国境を越えて同じですね。



藤原愛子  
 (静岡県立大学短期大学部)  
 後輩となる歯科衛生士の養成教育に携わっています。担当科目の1つに、『地域歯科保健』があります。学生の多くは、歯科医院に就職していきます。そこで出会うほとんどは、“患者さん”と呼ばれる人々であり、コミュニティで生活している人々です。コミュニティの資源である歯科医院ならびに歯科衛生士として、「コミュニティの実態を知り、生活を通して人々に関わる」ことを伝えたいと思っています。



山田 順一  
 (群馬県庁保健予防課)  
 9月に群馬県庁で元気県ぐんま21推進大会「ずっと元気に。あなたの健康度を測ります。」という健康測定に特化したイベントを開催しました。関係団体・大学・企業・NPOなど約50団体の出展ブースに、2日間で5,500名以上の方が来場し大盛況となりました。健康に対する住民のニーズは相当なもの(有名人や食べ物で釣らなくても人は集まる)で、関係機関がしっかり支援する環境づくりを進めないとならないと改めて感じています。



湯田 真喜雄  
 (熊本市役所)  
 健康くまもと21は、「エビデンスと目標値を市民に示し、健康づくり運動を作る健康日本21」の否定から始まった。「参加型計画づくり」から「市民主体の健康なまちづくり」への転換を目指し、これから何をどう進めようかと、市民と一緒に模索しまとめた。推進市民会議も市民と一緒に手づくりで設立。ガバメントからガバナンスへと、動きが始まった。計画書に不足、間違いが見えてきた。他都市に学び、市民と一緒に取り組みながら、修正していきたい。よろしくお願いします。

理事の皆さん、どうもありがとうございました。  
 Part (3号)につづきます。

# 第1回学術大会・設立総会 盛会に終わる！

日本ヘルスプロモーション学会の記念すべき総会が、去る11月15-16日に東京都新宿区内にある国立国際医療センターを会場として開催されました。当日は、約100名の参加者の皆さんが会を盛り上げてくださいました。

## 11月15日(一日目)

開会式の後すぐに『学会長講演』があり、順天堂大学の島内憲夫先生より「ヘルスプロモーションの奇跡 - 健康パラダイムの過去・現在・未来 - 」と題して、先生が1986年のオタワ憲章以来取り組んでこられたヘルスプロモーションの日本と世界における奇跡をお話くださいました。その後、『特別講演』では、同大学スポーツ健康科学部長でもありWHO協力機関として指定されている順天堂大学ヘルスプロモーション・リサーチ・センター所長でもある青木純一郎先生から「スポーツと健康を科学する」と題し、ヘルスプロモーションの医学的な側面における運動に関するお話をいただきました。お昼をはさんで設立総会が開かれ、学会設立趣旨の同意・活動方針への賛同が得られ、その後の理事会で承認されました。午後は、約3時間に渡り『シンポジウム』「ヘルスプロモーションの挑戦」をテーマに、5人のシンポジスト(健康社会学、コミュニティ論、地域看護学、公衆栄養学、国際保健学)による話題提供が行われ、学際的な視点から現時点におけるヘルスプロモーション展開への考察がされました。初日プログラム終了後、会場となった国立国際医療センター地下食堂で懇親会が行われ、およそ50名の参加者たちが和やかに交流を深めました。

## 11月16日(二日目)

初日の『シンポジウム』を追って、『シンポジウム』では「私のヘルスプロモーション実践」をテーマに4人のシンポジスト(市民サークル、市役所、学生、保健所)から実践報告があり、ヘルスプロモーション活動がより具現化されました。

簡略化されたプログラムで小さな会から出発いたしました。今後も会員の皆さまの活発的な参加を期待すると同時に、会が益々発展することを願ってやまない二日間でした。会場まで足を運んでくださった参加者の皆さま、準備に携わってくださった方々、そして記念すべき第1回大会の会場を提供してくださった国立国際医療センターに厚くお礼申し上げます。

なお、第1回大会の詳細は今後も引き続きニューズレター等で報告いたしますので楽しみに！

## 研究部会からのお知らせ

日本ヘルスプロモーション学会では、学会活動を活発にすることを目的として、以下のような部会を設置いたしました。会員の皆さまには是非いずれかの部会にご参加いただき、活動推進にあたっていただければ幸いです。(複数の部会への参加も大歓迎です。)  
コミュニティ健康づくり研究部会 健康なまちづくりに取り組む、市民・行政・その他のパートナーが楽しく健康づくりについて語り合います。

代表 笠井喜久雄 shiroi-0008@msd.biglobe.ne.jp  
健康社会学研究部会 健康をつくっているハッピーファクターを中心概念としながら、周辺領域とのネットワークングならびに理論構築をめざしてゆきます。

代表 助友裕子 hiroko\_suketomo@hotmail.com  
健康看護学研究部会 臨床と地域の双方にヘルスプロモーションの考え方が広められるよう、組織ぐるみでの取り組みを考えてゆきます。

代表 市村久美子 itimurak@ipu.ac.jp  
国際協力研究部会 発展途上国の支援を中心としながら、日本国内における実践事例を他の国々に適用できるような理論開発に取り組みます。

代表 湯浅資之 yuamokun@yahoo.co.jp  
理論研究部会 ヘルスプロモーションという「言葉の意味」や、広く知られている「坂道の図」について万民に分かりやすい普及啓発の手法を開発してゆきます。

代表 吉岡康 y.yshok@mb.pref.chiba.jp

なお、各部会に関するお問い合わせは上記の代表者まで(メールで)お願いいたします。

## トピックス

# ヘルスプロモーション グロッサリー

Vol.2

このコーナーでは、毎号、ヘルスプロモーションに関するキーワードを取り上げ、それに関する簡単な説明をしています。

3. 健康のためのエンパワメント (Empowerment for health): ヘルスプロモーションにおいて、エンパワメントとは、人々が自らの健康に影響を及ぼす意思決定や行動を、より良い方向へコントロールすることができるようにするプロセスである。(WHO 1988)
4. ヘルスプロモーション研究 (Health promotion research): ヘルスプロモーション研究への挑戦は、多様な人口集団や社会制度においてヘルスプロモーション活動が展開されるよう、理論的枠組や日常的な手段を改善することができるようにするために知識と見解を提供することにある。(Badura&Kickbusch 1991)

## 「会員の声」を募集しています！

身の回りの活動、日頃思うこと、ニューズレターに対するご意見、学会に対するご意見等、何でも結構です。

hiroko\_suketomo@hotmail.com

上記のアドレスまでメールでお送りください。

**編集後記** 新年あけましておめでとうございます。お正月は何を食べましたか？新婚ホヤホヤの私は、改めて気づく日本の食文化の極み?!(おせち料理)を通して「守り続けるもの」と「新たに創造するもの」そして「今」を実感したところです。(助友)  
本印刷物の無断転載を禁じます。